

第23回東日本事例研究オンライン研修会 発表概要シート

法人名	大和ハウスライフサポート株式会社	施設名	もみの樹・横浜鶴見
発表タイトル	・『可能性を信じて』		
研究の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人のニーズを如何に汲み取り、その実現の為にどのように多職種連携出来るか実証する。 ・上記の具体的事例として経管栄養から経口摂取移行へのフローを辿る。 		
発表の概要	<p>入居時、ほぼ全介助で1日の大半をベッド上で過ごされていたT様。ふとした日常会話の中でT様の「食」への想いを知った職員を中心に、想いの実現の為に、多職種が連携してADL・QOLの向上に取り組む事例である。</p>		
研究方法	<ul style="list-style-type: none"> ①食事摂取状況 ②パーセルインデックス ③睡眠効率 ④便性状 <p>※既往に糖尿病があり血糖測定を行いながら取り組みを行う</p>		
成果・結果	<ul style="list-style-type: none"> ①3食経管栄養から3食経口摂取へ。食事量も毎回8割～10割摂取。 ②点数的には大きな変化なし。但し、座位の耐久性や車椅子の自走距離は向上。 ③入居時は眠りが浅く、早朝に覚醒されていたが、その後は睡眠が深くなる。 ④泥状便から普通便へ。 <p>※血糖値は徐々に安定される。</p>		
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・「快食」「快眠」「快便」のサイクルが上手く機能するようになった。 ・怒った表情がT様の笑顔が増え、コミュニケーションも上手く図れるようになった。 ・上記について、自己実現する力が何よりの推進力になることが分かった。 		
アピールポイント 伝えたいこと	<p>これまで、ご家族の意向やスタッフの経験値を基に支援するケースが大半でした。今回の事例はT様ご本人の想いを聴いたことが発端です。何をすることが重要視されがちですが、本当のニーズを把握することが最も難しく、大切だと実感しました。</p> <p>また、時には耳を傾け、時には手をつなぎ、時には背中を押すなど、伴走車としての役割りの大切さに気付かされる事例でした。</p> <p>今後はT様や食べる取り組みに限らず、皆さまの想いの実現に応えていきたいです。</p>		